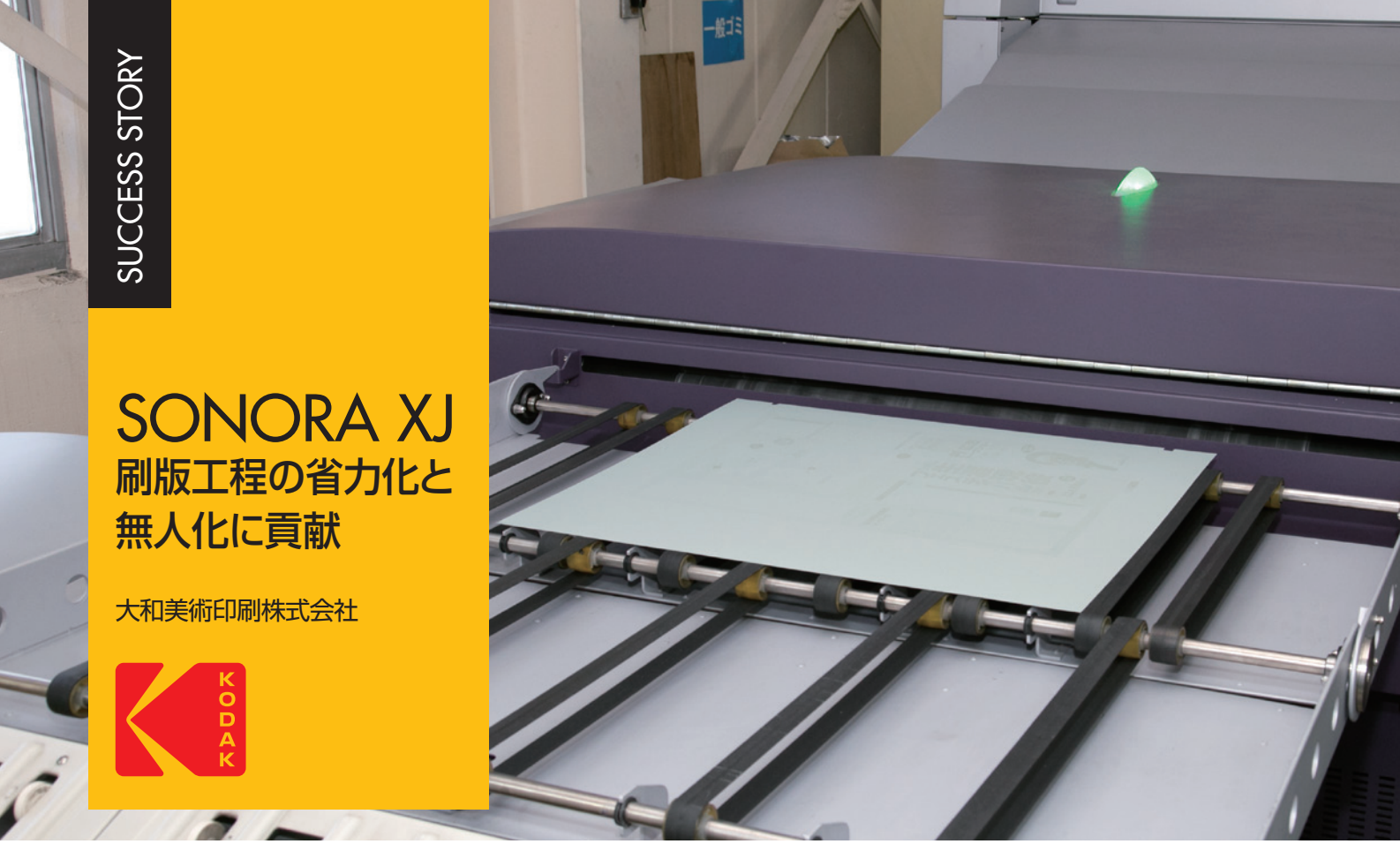
SUCCESS STORY

SONORA XJ
刷版工程の省力化と無人化に貢献

大和美術印刷株式会社



刷版工程の完全無人化を目指してSONORA XJプロセスフリープレートを導入。現像液の管理や保守の手間がなくなり、今はPOD兼任の女性スタッフ1名で2台のCTPを運用。

顧客ニーズに応えるコミュニケーション販促支援業

姫路市の臨海地域に本社･工場を構える大和美術印刷株式会社は、「コミュニケーション販促支援業」をモットーに、印刷にこだわることなく、顧客の販促活動を支援し、ニーズをカタチにするビジネス展開を推進している。1963年にマッチのラベル印刷から事業をスタートし、その後ポケットティッシュやうちわなどのノベルティグッズ、さらにはチラシやカタログなど一般商業印刷分野にも進出し、成長を加速させてきた。近年ではUVインクジェットやデジタル軟包装などの新分野にも本格参入し、オリジナルラベルのペットボトル「販促水」や「販促米」といった販促ツールの開発にも乗り出している。つねにビジネスの一歩先を見ながら新しい事業領域に挑戦する理由について、共同最高経営責任者で代表取締役専務の篠田 直宏氏は、次のように話してくれた。

「将来はCTPを印刷機のすぐそばに設置して、さらなる省力化と効率化を目指しています」

「当社は一度、マッチ需要の激減という大きな経営危機を乗り越えてきました。今はチラシ印刷の需要低迷という新たな課題に直面しています。長年にわたって当社の成長に寄与し今でも売上の70%を占める中核事業ですが、新分野の開拓をいち早く進めなくては持続的成長は望めません。そのために新設備の導入はもちろん、企画デザイン力や

代表取締役専務　篠田 直宏 氏

執行役工場長　木南 清志 氏

多様なノベルティグッズをデジタル印刷機で生産
（写真の畳も印刷物）

B 縦半裁 4/4 色オフセット輪転機 3 台を保有

2011 年導入の四六半裁判 5 色 H-UV 印刷機

営業提案力の強化、多能工化など企業改革を積極的に進めています」
同社のオフセット印刷部門には B 縦半裁 4 ／ 4 色オフセット輪転機が 3 台、5 色 H-UV 印刷機を含む多色枚葉機が 3 台があり、今でも 2 ラインの CTP が月平均 4,000 版を供給している。1 台は 2006 年に導入した KODAK MAGNUS 800 QUANTUM で、今も安定した性能を発揮している。デジタル印刷部門では UV インクジェット機、軟包装印刷機、POD 機などを駆使して、POP や看板、シュリンクラベル、紙器など付加価値の高い印刷関連製品を製造している。

刷版部門をなくし無人化を加速する完全無処理 CTP プレート

同社が KODAK SONORA XJ プロセスフリープレートの導入を目指して、社内での印刷テストをはじめたのは 2016 年 10 月のこと。その理由について工場長の木南清志氏は次のように説明してくれた。
「刷版工程の無人化が当社の方針ですが、現像液の管理やメンテナンスで、どうしても専任のスタッフが必要になります。現像処理を必要としない SONORA XJ を使えば、それもなくなると考えて、印刷テストに挑戦しました」
同社の刷版部門には 2 台の CTP があるが、以前は男性スタッフ 4 名が常駐して運用していたそうだ。しかし、チラシ需要が低迷し出力版数が減少するなかで、コスト削減と省力化は避けられない課題だった。そこで同社は刷版部門をなくし、プレート出力に関する一連の作業をプリプレスと印刷部門のスタッフでカバーするという大胆な業務改革、多能工化を進めてきた。ただ、プリプレスの女性スタッフが現像機のメンテナンスまで担当するには負担が重く、完全な無人化は難しかった。木南工場長はこの業務改革をさらに前へと進めるために、SONORA XJ の導入を模索したのである。テストの結果も極めて良好だったと木南工場長は次のように振り返っている。
「最初のテストでは少しヨゴレが出ましたが、ローラーを調整するだけで簡単に直りました。コダックさんの適切なアドバイスのおかげでした。また SONORA XJ はキズがつきやすい、絵柄が見にくいといった噂も聞いていましたが、現場のオペレータは問題なく使えるという判断だったので、スムーズに導入が決まりました。新しいものに意欲的な当社の社風も後押ししたと思っています。水の調整を頻繁にする必要もなく、これまでと何ら変わることなく普通に刷れるので違和感は全く無かったです」

オフ輪と枚葉印刷機（H-UV 印刷機／油性印刷機）での適性を実際の仕事のなかで見極めるだけでなく、競合製品との比較もあったので、テストには約 2 カ月間がかかったが、2017 年 1 月には現像有り版から SONORA XJ への移行が正式に決まった。念のため自動現像機を 1 台残したが、7 月末にはそれも撤去し、今ではすべての刷版を SONORA XJ に切り替えた。耐刷性はオフ輪での実績が最大 25 万通し、H-UV 印刷機でも 3 万通しの実績を持つ。自動現像機にまつわる刷版のトラブルが一切無くなったことも印刷現場では好意的に受け入れられた。

SONORA XJ の導入で、トータルメリットを追求

SONORA XJ の導入によって自動現像機がなくなり、メンテナンスの手間と時間は一切ゼロになった。年間約 40 万円かかっていた現像廃液の処理費用と薬品の購入費用もゼロになった。休み明けには早出の清掃作業などもあったが、今はこうした残業代もなくなると木南工場長は指摘する。現在、同社の刷版ルームにはプレートの補充や振り分けを行うために女性スタッフが 1 名いるだけだ。しかも彼女は同じ部屋にある POD のオペレータも兼任しているので、刷版工程の担当人数はわずか 0.5 人という計算になる。完全無人化まであと一歩に迫った今、木南工場長は「将来は CTP を印刷機のすぐそばに設置して、さらなる省力化と効率化を目指したい」という。そのときこそ、同社の念願だった刷版工程の完全無人化が実現できるのだろう。同社は SONORA XJ の導入にあわせ、コダックと共に CMS の強化も行っている。損紙はオフ輪で B2 換算 500 枚以下、大ロットでも 2% 以下という限界に近い実績を持ちながら、さらなる生産性の向上と効率化を目指している。こうした地道な努力をコダックの技術がサポートしている。

大和美術印刷株式会社
代表取締役社長：佐々木 賢司
代表取締役専務：篠田 直宏
〒671-1234 兵庫県姫路市網干区新在家 1275 番地
TEL：079-273-0125（代）／FAX：079-274-2517
http://www.daiwa-ap.co.jp/

コダック合同会社　http://www.kodak.co.jp
〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13　TEL.03-6837-7285（営業代表）
大阪：050-3819-1266　名古屋：050-3819-1265　福岡：050-3819-1270
仙台：050-3819-1255　札　幌：050-3819-1250　金沢：076-200-9583
製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com
2017-12